

第2回「持続可能な地域のあり方懇話会」

議事要旨

日 時 令和7年10月18日（土） 10:00～12:00

場 所 タワーホール船堀 2階 瑞雲

出席者 【専門委員】

白木 三秀 （早稲田大学名誉教授・国士舘大学大学院客員教授）
澤岡 詩野 （東海大学健康学部健康マネジメント学科准教授）

【委員】

関口 孟利 （松江地区連合町会会長）
中村 徹 （小松川平井地区連合町会会長）
田澤 茂 （一之江地区町会連合会会長）
千倉 嘉一 （葛西地区自治会連合会会長）
森田 省吾 （小岩自治会連合会会計）
松下 幸博 （篠崎地区連合町会会長）
実川 享 （鹿骨地区自治会連合会会長）
高山 稔 （くすのきクラブ連合会副会長）
戸倉 振一 （江戸川区障害者団体連絡会江戸川区腎友さつき会会長）
古宮 朋子 （一般社団法人江戸川区文化芸術協会常任理事）
村山 寿太郎 （一般社団法人江戸川区スポーツ協会常任理事）
河藤 小百合 （公益財団法人えどがわボランティアセンター監事）
杉山 英麿 （江戸川区商店街連合会副会長）
大野 靖二 （東京商工会議所江戸川支部事務局長）
菅原 豊 （環境をよくする葛西地区協議会会長）
中里 国利 （江戸川消防団副団長）
彦田 好之 （葛西消防団副団長）
小泉 和久 （小岩消防団副団長）
池田 進 （認定NPO法人えどがわエコセンター理事）
中嶋 浩詞 （江戸川区立中学校PTA連合協議会ブロック長）
窪田 龍一 （江戸川区議会議員生活振興環境委員会委員長）
小林 智夫 （江戸川区議会議員生活振興環境委員会副委員長）
グリズデイル バリージョシュア
（公募区民）
原田 まなつ （公募区民）
磯崎 愛 （公募区民）

議事要旨

1 開会

(斉藤区長より開会のあいさつ)

- 今の子どもたち、そしてこれから生まれてくる子どもたちのために何ができるかを考えるとき、「持続可能性」という視点が大切になってくると思っている
- ある民間の調査機関が行った調査において、一般の方が江戸川区と聞いてイメージするキーワードは「子育て」、「公園」、「下町」の3つであった
- 特に「下町」に関しては、「地域コミュニティ」が重要な要素であり、今日までそれを作り上げてきてくれたのが、今日お集まりの皆さまである。下町の人情や心意気をどのように未来に繋げていくか、この大切なテーマについて、忌憚ないご意見を寄せていただければと思う

2 事務局説明

(前回皆様からいただいたご意見について)

- 第1回の懇話会では、普段活動する中で感じる課題として、「なり手不足」、「活動の負担が多い」、「特定の人に負担が集中してしまう」など様々なご意見を多々いただいた
- そうした課題の解決策の一つとして、「地域連携の場」というものを(仮称)ミニ区役所(以下、ミニ区役所)の中に設置し、地域の課題解決の場として活用いただくイメージを提示させていただいた
- この「地域連携の場」に対するご意見として、「地域の団体が連携できる」、「地域ごとの状況に即した活動ができる」などのご意見をいただく一方で、疑問もいただいた
- 1つ目の疑問は、「ミニ区役所はどういうものであるか」ということ。これについて、今本区が考えていることを説明する
- 基本的には自宅から新庁舎にオンラインで電子申請ができ、区役所に来庁しなくても様々な手続きや相談ができる体制を整えていきたいと考えている。ただ、自宅と新庁舎をつなぐだけではできないこともあるため、自宅から歩いて行ける範囲で区内に20か所程度、既存の施設を活用してミニ区役所を整備していく
- ミニ区役所には4つの機能があり、1つ目の「地域のつながりをコーディネート」が前回提示した「地域連携の場」。2つ目は、基本的には申請・相談は自宅からオンラインで行えるようにしていくが、ご自身で手続きが難しい方のためにサポートを行う機能。3つ目はオンラインで行うことができない手続きなどについて、一時的な窓口として受付を行う機能。そして4つ目は地域の皆さまが交流する場となり、多世代が集える居場所の機能である
- 2つ目の疑問は、「結局同じ人の集まりになってしまうのでは」というもの。これについては、ミニ区役所職員が日常的に地域の皆さんの声を聴き、団体や学校との関係づくりをすることで、地域のネットワークを構築する。このような日常の活動を行うことにより、地域のおまつりや防災の活動などに、これまで参加していなかった方に参加していただくことが可能になるのではないかと考えている
- 3つ目の疑問は、「今までのコミュニティが分断されてしまうのでは」というもの。これについては、ミニ区役所の圏域は今の町会・自治会の圏域を充分に考慮して設定し、イベントや会議においては、地域ごとの考えに応じて、ミニ区役所ごとに行うことやいくつかの地域が合同で行うこともあり得ると思っている
- 一方で、外国人の方との活動の仕方や、近所付き合いの低下など、「地域連携の場」では解決が

難しいものも課題としてたくさん意見をいただいた

- 「地域連携の場」以外の解決方法では、「掲示板などのアナログな情報伝達の拡充」や「若者が主体となるイベントをサポート」などのご意見をいただいたが、前回議論を深める時間が少なかったため、今回もご意見をいただきたい
- これまでのワークショップ等で得られた小・中学生、高校生などの声を参考にし、「地域連携の場」以外の解決方法について意見交換をお願いしたい

3 意見交換

前回のご意見を受けてあらためて説明した「地域連携の場」及び「地域連携の場」以外の解決方法について、グループ内で意見交換を行った。

(主な意見の内容)

<地域連携の場について>

- ・拠点が身近にあるのは良いこと
- ・身近な方との関わりができると災害時に助け合える
- ・いろいろな団体と関わることで、情報の共有がしやすくなる
- ・ミニ区役所の職員が出向いて関係づくりをしてくれるとさらに良くなる
- ・イベントなどのきっかけづくりの場となる
- ・ミニ区役所で中・高校生を呼び込むイベントを実施
- ・若い方をどう活動の仲間にしていくのか
- ・どんな活動をしているかみんなに情報が行き渡ることが大切
- ・DXを活用し、取り組みが発信できる仕組みづくり
- ・地域によって色がでる
- ・役割分担が重要
- ・地域連携の場のハブとして区が存在が大事
- ・カフェなど、人が集まる仕組みも良いのでは

<地域課題の解決方法について>

- ・外国人コミュニティへのコーディネートを区の職員が行う
- ・子どもの保護者を巻き込む仕組み
- ・仕事をリタイアした後に地域活動に参加できる仕組み
- ・中学生などのクラブチームとの連携をする仕組み
- ・あいさつ運動など人が会うきっかけをつくる
- ・外国人向けの広報特集
- ・商店やコンビニなど身近なところに区の広報物を配置する
- ・コミュニティバスなど地域交通のお助けマンの配置
- ・風水害の「避難タワー」の設置
- ・世代をこえてすべての人が集うフォーラム
- ・報酬（クーポン券）や寄付金など金銭的な支援
- ・費用がかかる活動自体を見直す
- ・クラウドファンディングによる活動費の支援
- ・子育てや健康などテーマに応じた情報発信

- ・ 掲示板の有効活用
- ・ マニュアルや案内を整備し、新しい人が参加しやすい環境の整備

< 講評 >

(澤岡副会長)

- 今日は地域でいろいろな活動をされている方が集まっているにもかかわらず、初めて会う方もいると思う。そのような方々がこれからの江戸川区、地域について話し合っているということ自体が、ミニ区役所としてイメージするべき姿という意見があった
- 地域連携の場を実現するために、大事になってくるのがハブ・繋ぎ手になる存在。これが、江戸川区が担当する重要な役割になってくるのではないか
- また、これから地域活動のあり方を考えていく中で、無理やりまぜこぜにして、みんな平等に一样にアプローチしていくという方法がそぐわない時代が来ているのかもしれない。もしかしたら、差別ではなく色分けして、それぞれに応じたアプローチを行う場作りをしていった方がうまく機能するかもしれない
- さらに言えば、ミニ区役所それぞれに権限を与えて、それぞれのゴール設定もそれぞれのエリアで決めてよいという仕組みもあり得るのではないか。その方が地域の宝として生きてくるかもしれない。隣の地域のミニ区役所の方が面白そうだから、そちらに参加したいということも起きてきて、盛り上がっていいのかもしれない
- 情報は、デジタルやアナログを使い分けて丁寧にやっていく必要がある。人も、地域ではなく、価値観で分けていく
- お金については、持続可能性という視点でいえば、補助金や金銭的支援ありきでスタートしてしまうと、それがなくなったときに続かなくなってしまう。これも使い分けが必要かもしれない
- いずれにしても、地域にも自治体にも、自由な発想が求められている。手続きも電子化が進んでいくが、ミニ区役所は近いところにできるから、あえてアナログな部分を残して、地域で顔なじみができる場として考えていくこともできる
- ミニ区役所がその地域にどのような新たな価値観を生み出していけるか。そのような視点で、地域に暮らす住民として、「ミニ区役所にこんなことがあったら面白いよね」など、地域で話していけるような土壌を作っていくことも大事だと思う

4 閉会

(白木会長より閉会のあいさつ)

- 今日の議論の中でも、様々なアイデアが出てきているが、それを実行していくのは、江戸川区役所だけではない。区役所はもちろん重要な機能を担っているが、主体は区民である
- 区民である我々が、未来永劫ここに住みたい、住んでよかったなと思える地域をどのように作れるかということだと思う。江戸川区民が主体となって、持続可能な社会をつくることが重要であると改めて感じた
- 現在いろいろな国籍の人が江戸川区に住んでいるが、私はこの特徴を生かすべきだと思っている。グローバリゼーションの中で地域がどう生きていくかを考えていただきたい